

2020 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	間文化現象学研究センター
---------	--------------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなってできるだけわかりやすく記述してください。

【概況】

2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、予定していた研究会、講演会が思うように開催できなかった。中山大学(台湾)との連携企画「第二回東アジア現象学会議」、劉國英教授(香港中文大学)講演会、国際シンポジウム「くあいだ」とく越境」―間文化現象学の展開と新たなはじまり」など、昨年度中止した企画も、コロナ感染症の不確実な状況の中で、最終的には本年度も延期のやむなきに至った。しかし、2020 年度後半より ZOOM を使用したオンラインでの研究会、講演会を開催することが可能となり、いくつか研究会、講演会を開催することができた。

【研究会等の企画実施】

- (1) 2020 年 12 月 26 日には研究会メンバーである亀井大輔教授の訳書の合評会「デリダ『ハイデガー 存在の問いと歴史』(白水社、2020 年)」を「ハイデガー研究会」との共催の形で開催できた。この合評会においては、亀井教授による訳書をめぐって、全国レベルでのハイデガー研究者と有益な意見交換が行われた。
- (2) 2021 年 3 月 18 日には人文科学研究所「若手研究者支援」プログラムの支援を得て、ワークショップ「哲学と諸学問における「間文化性」―専門的研究からトランスディシプリナリーな研究への展開」を開催した。同ワークショップにおいて、若手研究者が中心となって企画を行い、河野哲也氏(立教大学)、三村尚彦氏(関西大学)、吉川孝氏(高知県立大学)ら、学際的な研究を展開している研究者をお招きして、若い研究者と学際研究のあり方と展望について、意見が交換された。
- (3) 同 3 月 20 日には、同じく人文科学研究所「間文化性と人間存在の回復」川瀬智之氏(東京藝術大学准教授)をお招きして「メルロ＝ポンティからデュフレンヌへ 美学における感情の問題について」を開催した。この講演会では、「芸術の現象学」プロジェクトの趣旨にのっとり、芸術経験をめぐる現象学と美学の関係について、貴重な意見交換を行うことができた。
- (4) 同3月27日には「ひとはいかにして思考するのか？―パタイユ、ブランショ、ナンシー」を東京大学「共生のための国際哲学センター」との共同主催で開催した。同シンポジウムでは、間文化現象学研究センターから横田祐美子氏(本学助教)、伊藤潤一郎氏(学振 PD・立命館大学)が中心的に参加し、多彩な活動を行う東京大学「共生のための国際哲学センター」とのネットワークを形成できた点で、大きな意義があった。

これらはいずれもオンラインでの試みであったが、多くの外部参加者を得ることもでき、今後の研究会開催にとって意義のあるものとなった。

【外部資金の獲得】

また外部資金としては、亀井大輔教授が 2021 年度科学研究費補助金・基盤研究(B)を獲得し、外部資金の獲得においても成果があった。

【若手研究者の育成】

また若手研究者のうち、博士課程学生 2 名が学位を取得し、2 名が他研究機関の研究員として 2021 年度からの採用が決定している。このように、若手育成においても成果があった。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2021年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位	
センター長	加國 尚志	文学部	教授	
運営委員	北尾 宏之	文学部	教授	
	伊勢 俊彦	文学部	教授	
	谷 徹	文学部	特任教授	
	林 芳紀	文学部	准教授	
	亀井 大輔	文学部	教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	鈴木 崇志	文学部	准教授	
	日暮 雅夫	産業社会学部	教授	
	長澤 麻子	文学部	教授	
	辻 敦子	文学部	准教授	
	神島 裕子	総合心理学部	教授	
	横田 祐美子	衣笠総合研究機構	研究教員(助教)	
	石原 悠子	グローバル教養学部	助教	
学内の若手研究者	専門研究員 研究員 初任研究員	小田切 建太郎	衣笠総合研究機構	専門研究員
		松田 智裕	文学部	初任研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	大学院生	栴川 耕平	文学研究科	博士課程後期課程
		有村 直輝	文学研究科	博士課程後期課程
	学振特別研究員 (PD・RPD)	伊藤 潤一郎	立命館大学	学振特別研究員 PD
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)	青柳 雅文	文学部	非常勤講師	
	神田 大輔	文学部	非常勤講師	
	小林 琢自	文学部	非常勤講師	
	田邊 正俊	文学部	非常勤講師	
	平尾 昌宏	文学部	非常勤講師	
	小西 真理子	文学部	授業担当講師	
	杉本 俊介	文学部	授業担当講師	
	川瀬 雅也	文学部	授業担当講師	
	浅沼 光樹	文学部	授業担当講師	
客員協力研究員	川崎 唯史	熊本大学大学院生命科学研究部生命倫理学講座	助教	
	佐藤 勇一	福井工業高等専門学校	准教授	

	黒岡 佳証	中国福建省福州大学外国語学院日本語学科	教員
	吉松 覚	人文科学研究所	客員研究員
	中澤 瞳	日本大学通信教育部	准教授
	赤阪 辰太郎	人文科学研究所	客員研究員
	DALISSIER Michel	金沢大学国際基幹教育院	准教授
	松葉 祥一	人文科学研究所	客員研究員
	村井 則夫	中央大学文学部	教授
	廣瀬 浩司	筑波大学人文社会系	教授
	本郷 均	東京電機大学工学部	教授
	郷原 佳以	東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻	准教授
	宮崎 裕助	新潟大学人文学部	准教授
	榊原 哲也	東京女子大学現代教養学部	教授
	紀平 知樹	兵庫県立大学看護学部	教授
	神崎 宣次	南山大学国際教養学部	教授
	池田 喬	明治大学文学部	准教授
	中澤 栄輔	東京大学大学院医学系研究科医療倫理学分野	講師
	佐々木 拓	金沢大学人間社会研究域人間科学系	准教授
	藤木 篤	神戸市看護大学看護学部人間科学領域	准教授
	吉川 孝	高知県立大学文化学部	准教授
	酒井 麻依子	筑波大学	学振特別研究員(PD)
	長坂 真澄	早稲田大学国際教養学部	准教授
	柿木 伸之	広島県立大学	非常勤講師
	西山 雄二	首都大学東京人文科学研究科	准教授
	馬場 靖人	早稲田大学総合人文科学研究センター	招聘研究員
	Berrisford Donna	間文化現象学研究センター	客員研究員
	Gurjanov Filip	間文化現象学研究センター	客員研究員
	丸橋 裕	京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻	非常勤講師
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)			
研究所・センター構成員 計 56名 (うち学内の若手研究者 計 5名)			

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2021年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	Toru Tani	Transitions - Crossing Boundaries in Japanese Philosophy,	共著	2021年3月	Chisokudo Publications, Nagoya	ed. by Leon Krings, Francesca Greco, Yukiko Kuwayama	pp.175-195
2	亀井大輔	現代フランス入門	共著	2020年7月	ミネルヴァ書房	川口茂雄・越門勝彦・三宅岳史編著	pp.316-322
3	川崎唯史	フェミニスト現象学入門—経験から「普通」を問い直す	共著	2020年6月	ナカニシヤ出版	稲原美苗、中澤瞳、宮原優	pp. i-iv, 129-139, 178-186
4	加國尚志	M.メルロ＝ポンティ著『自然 コレージュ・ド・フランス講義ノート』	共訳	2020年5月	みずぎ書房	松葉祥一（共訳）	
5	鈴木崇志	『フッサールの他者論から倫理学へ』	単著	2021年2月	晃洋書房		

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	黒岡佳祐	中国の大学における日本語スピーチ指導の課題——「レトリック」の歴史的展開を踏まえて	単著	2021年3月	立命館大学人文科学研究紀要No. 126	無	pp.59-85	有
2	黒岡佳祐	超政治の射程—轟孝夫『ハイデガーの超政治』に寄せて	単著	2021年3月	Zuspiel 第4号(オンラインジャーナル)	無	pp.3-14	無
3	川崎唯史	メルロ＝ポンティの倫理学とボーヴォワール	単著	2020年11月	日本メルロ＝ポンティ・サークル、メルロ＝ポンティ研究、第24号	無	pp.55-71	無
4	川崎唯史	文学作品を用いた現象学的倫理学の可能性	単著	2020年11月	日本現象学会、現象学年報、第36号		pp. 3-13	無
5	佐藤勇一	「円、線、空白---メルロ＝ポンティとインゴルドの術語を借用した p4c に関する考察---	単著	2021年3月	『立命館大学人文科学研究紀要』126号	無		無
6	伊勢俊彦	謝罪と赦し、それで終わるものと後に残るもの あるいは償いと継続的コミットメント	単著	2020年4月	立命館大学人文学会、立命館文学、665号		pp.34-47	無
7	加國尚志	メルロ＝ポンティにおける現象学と形而上学	単著	2020年5月	京都大学哲学論叢刊行会、『哲学論叢』47巻		pp.1-19	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	黒岡佳祐	轟孝夫『ハイデガーの超政治』に寄せて	2020年12月	ハイデガー研究会特別企画、ZOOM(オンライン)	齋藤元紀
2	亀井大輔	生・生き延び・死後の生—隠喩の反転が開くもの	2020年6月	宮崎祐助『ジャック・デリダ 死後の生を与える』合評会、オンライン	宮崎裕助、立花史、長坂真澄
3	亀井大輔	デリダと丸鬼周造—偶然性をめぐって	2020年8月	東アジアにおける哲学の生成と発展—間文化の視点から・第三回共同研究会、京都大学+オンライン	杉村靖彦、張政遠、植村玄輝、景山洋平、ほか

4	亀井大輔	超越論的暴力をめぐって— —鈴木康則「条件への思考 —ジャック・デリダ「暴力と形而上学」の読解」への問い	2021年1月	「暴力と形而上学」、あるいは思考と暴力—J・デリダ、E・レヴィナスと共に考える、オンライン	鈴木康則、藤岡俊博、宮崎裕助、合田正人
5	伊勢俊彦	歴史的不正義からの回復: いかにして被害は語りうるものになるか	2020年4月	応用哲学会 第12回年次研究大会	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	デリダ『ハイデガー 存在の問いと歴史』合評会	オンライン	2020年12月	90名	脱構築研究会、ハイデガー研究会
2	「哲学と諸学問における「間文化性」-専門的研究からトランスディシプリナリーな研究への展開」	オンライン	2021年3月	40名	人文研プロジェクト「間文化性と人間性の回復」
3	メルロ＝ポンティからデュフレンヌへ美学における感情の問題について」	オンライン	2021年3月	20名	人文研プロジェクト「間文化性と人間性の回復」
4	「ひとはいかんして思考するのか?-バタイユ、ブランショ、ナンシー」	オンライン	2021年3月	270名	東京大学「共生のための国際哲学センター」

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	立命次郎	〇〇コラム	××新聞 文化面 計6回掲載	2014年4月～9月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	衣笠三郎	財団法人〇〇財団	〇〇優秀文化賞	〇〇に関する研究	2014年10月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	亀井大輔	20世紀フランスにおけるハイデガーとベンヤミンの受容史の解明	基盤研究(b)	2021年4月	2025年3月	研究代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	立命太郎	〇〇に関する研究	△△財団・若手研究者奨励金	2014年5月	2015年3月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1	立命太郎	特許(国内)	本人単独	筆頭発明者	****	****	****	日本